

保護者様

ときわみなみのこどもえん

園長 小畑 圭子

学校評価報告について

今年度の保護者評価アンケート、職員自己評価を含めた「学校評価」のご報告をさせていただきます。「幼保連携型認定こども園ときわみなみのこどもえん」の取り組みを自ら振り返り本園の教育活動、その他の運営についての改善を目指すとともに保育の向上に努めて参ります。

令和5年度学校評価は内容でまとめました。。

- ① 自己評価結果報告書
- ② 教職員自己評価
- ③ 保護者アンケート調査

自己評価結果報告書

1. 本園の教育目標・方針

【教育の目標】

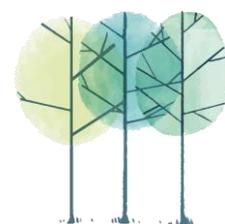
子どもの人間形成を培う大切な乳幼児期に豊かな自然環境の中で生きる力の基礎を身につける手助けをします。

【教育の方針】

環境保育から学ぶ「あそび保育」を柱とし、「主体的・対話的で深い学び」を育み小学生へと繋げていきます。

【育みたい3つの力】

- ・自分で考えて行動する力
- ・色々な経験の中で失敗や困難に立ち向かおうとする力
- ・遊びを通して生きる力



2. 本年度、重点的に取り組む目標や計画

課 題	具体的な取り組み方法
1・教育の質の向上 保育環境の研究	<ul style="list-style-type: none">• 本園の教育目標・教育要領を職員間で、共通理解の中、子どもたちが主体的に活動し遊びがより充実するように、保育環境や援助の在り方を話し合い、研究する。• 日々の保育の記録から園児の育ちを職員一人ひとりが視点をもってより一層、幼児理解につながるよう努力する。• 園または、教職員に対して必要な研修内容を検討し、計画的に園内外の研修に取り組むことで更なる教職員の資質向上に努める。
2・安全管理	<ul style="list-style-type: none">• 教職員の安全確保に関する共通理解を図る。• 保育中、登降園における安全確保の体制• 園外保育、行事における具体的な安全管理の取り組み• 安全に配慮した園庭、園舎の体制 災害時や不審者の立ち入りなど緊急時の体制
3・乳児と幼児の職員間の連携	<ul style="list-style-type: none">• 研修を通して乳幼児保育の共通意識・共通理解を図る• 乳児会議の中で保育の報告、連絡を密にし職員間の連携を図る

3. 評価項目の取組み結果・今後の課題

教育の質の向上・保育環境の研究

乳幼児理解・保育に繋げるための研修（配信を含め）自己課題を持って積極的に参加するように努めた。

主体性の大切さを再確認し、遊びがより充実できるように、また乳幼児の育ちに繋げる保育が出来るように日々意識した。

一人ひとりの子どもの成長に合わせ丁寧に関わる保育を心がけていた。今後は保育を見せ合い自分の保育を振り返り、遊びがより充実出来るように保育の質の向上を目指す。

安全管理

年間で行う避難訓練は、全職員が自己の役割を責任を持って行うように意識し取り組んでいた。災害発生時や不審者侵入に際して、自己の役割を各教職員が意識し乳児を含めた園全体の避難訓練の実施を行った。園児一人ひとりが自分の身を守る大切さを感じ行動できるように指導する中、職員・子どもたちも真剣に取り組んでいた。1年間の反省を振り返り、引き続き専門的な指導を取り入れより深い「危機管理意識」の向上を目指していきたい。

乳児、幼児に対する日常の健康観察、感染症対策（手洗い・うがいの励行、保育室温度湿度管理）の徹底に努めた。職員一人ひとりの意識は高く処置対応も良くできている。

「ヒヤリハット記録簿・事故報告記録簿」の記入を通じて、原因・問題点を確認し改善策を検討し職員間での共有を徹底した。

施設設備及び園舎周辺の定期的な安全点検、危険個所の早期発見、対処の徹底を図ったが今後も職員一人ひとりの危機管理に対する意識を高く持ち、早急な対応を心がける。

乳児と幼児の職員間の連携

乳児・幼児の職員が関わる時間が少ないので、情報共有の取り組みとして乳児・幼児の会議資料・報告日誌などがいつでも閲覧出来るようにした。

乳幼児理解をさらに深める為、研修も積極的に参加し学びに繋がれた。

乳幼児保育の理解を含め職員間の連携は努力を必要とすると感じる。改善策としては、小さな事でも情報を連絡しあい共有することを徹底する。職員間のコミュニケーションを取りあう。

今後は、幼児と乳児の交流も機会をつくり行えるように検討。

4. 令和5年 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
1・保育教諭の資質向上 保育内容の共通意識	<ul style="list-style-type: none">• 本園の教育目標・教育要領を職員間で、子どもたちが主体的に活動し遊びがより充実するように、保育環境や援助の在り方を話し合い、共通意識を持ち保育に取り組む。• 乳児・幼児の保育の専門性を高めるための研修の充実を図る。• 月案・週案・個別記録・保育日誌の記録から目標・課題を振り返り反省を生かし、日々の保育に努める。• 公開保育・学校関係者評価の実施の取り組みにより、日々の保育、園の運営の向上を図る。
2・健康・安全管理	<ul style="list-style-type: none">• 園児の健康状態を把握し、体調の変化や不測の事態についても敏速に対応出来るように職員間の共通意識を高める。• 安全確保に関して教職員の共通理解を図る。• 災害発生時の安全に備え、避難訓練の見直し、実施を行う。

・自己評価 一職員一

I 保育の計画性 2	<ul style="list-style-type: none"> ・園の教育理念・教育目標の理解 1 ・こども園の教育要領・指針の理解 2 ・指導計画の作成 2 ・環境の構成 2 ・保育と計画の評価・反省 3 ・畑の活動・食育活動の計画性 2 	<ul style="list-style-type: none"> 1よくできている 2まあまあできている 3あまりできていない 4まったくできていない
---	---	---

保育の計画性でよく出来ていると思ったこと

幼児

- ・日々の保育は子どもたちの遊びの姿を見ながら環境構成を考えていた。
- ・指導計画を各学年で考え毎月反省することで、教師の意識が変わっていった。
- ・毎日の会議の中で各クラスの様子、子どもの対応について共有することが出来た。
- ・研修をきっかけに環境構成などを考え直すようになった。
- ・今年度は、遊びこみやすい環境を意識することが出来た。
- ・栄養士の食育を担任でも続けることで（3色食品群）子どもの食が進んだ。
- ・子どもたちが興味をもっていたはさみ・のりをコーナーに置き子どもの「遊びたい」気持ちを引き出せるように環境を設定した。
- ・毎日の戸外あそびの中で気温や自然物を通して季節の移り変りを感じられるように心がけた。
- ・子どもたちの遊びを良く観察して必要な素材を準備することで、遊びが発展するように意識した。
- ・子どもが楽しいと思えるように日々工夫した。

乳児

- ・子ども一人ひとりの毎日の気づきをアプリとは別に記録し見返すことで保育の計画をたてた。
- ・わからないことや疑問点は他の保育士にその都度相談した。
- ・記録を残しておくことで振り返ることもでき一人ひとりに合わせた関わりに役立つことが出来た。
- ・季節に合わせて環境を整えることを意識した。
- ・園の教育理念や教育方針を理解し共感している。
- ・自分の保育と評価・反省について次の保育に生かせるように行っている。
- ・個人カリキュラム、月案の記入により一人ひとりにあった言葉かけや援助をする事が出来た。
- ・カリキュラムを職員で共有することによって、子どもの成長を促すうえで同じ目標を持ちながら関わる事が出来た。
- ・怪我・病気などの振り返りをする事により保護者支援につながったり、成長過程の記録をすることでより良い保育に繋がった。

課題と思ったこと

幼児

- ・行事の先を見据えた保育の計画
- ・子どもたちの様子は伝え合えているが保育を見せ合うことが出来なかった。
- ・クラスでの食育活動があまり出来なかった。
- ・季節に応じた環境構成を保育に取り入れる。
- ・他クラスの雰囲気やクラス運営、担任の声掛けなど保育の様子を知り学びに繋げたい。
- ・行事に対して苦手意識のある子への配慮を早い段階から考える。
- ・畑活動をもっと積極的に行う。

乳児

- ・教育要領・保育方針をより理解し保育に繋げる。
- ・関わりが少ない幼児の子に対して、幼児の先生の関わり方を参考に自らの保育を行っている。
- ・幼児の保護者に話しかけられた時にスムーズに対応できるようにする。

<p style="text-align: center;">Ⅱ</p> <p style="text-align: center;">保育の在り方、 乳幼児への対応</p> <p style="text-align: center; color: red; font-size: 2em;">2</p>	・健康と安全への配慮	1	1よくできている
	・乳幼児理解	2	2まあまあできている
	・指導と援助	2	3あまりできていない
	・保育者同士の協力・連携	2	4まったくできていない

保育のあり方、幼児への対応でよく出来ていると思ったこと

幼児

- ・一人ひとりの子どもと会話し、丁寧に関わる事を意識した。スキンシップ・気持ちを受け取る事を大切にした。
- ・体調不良や心の不安定さなど敏感に気づくことが出来た。
- ・子どもが何かを頑張ったり成功した時、沢山認めてあげて一緒に喜ぶことで子どもたちの自信に繋がるように関わることが出来た。
- ・子どもたちの様子、体調をみて家庭であったことなどを配慮し課題のレベルを調節するよう意識した。
- ・片付けや身支度を進んでできない子には、気持ちを受け入れて前向きに取り組めるような声かけをする。
- ・毎日の会議の中で他クラスの子への対応など確認できるので、意識をして関わることが出来た。
- ・小さなことでも教師間で共有する事を意識した。

乳児

- ・一人ひとりと丁寧に関わることで子どもがやってみたい！と思った遊びを促しつつ見守ったり体調の変化に早めに気づけたりすることが出来ている。
- ・自分の気持ちを言葉にするのが難しいため、スキンシップを多くし、わらべ歌などで目を合わせる時間を作った。
- ・職員同士で様々な事を共有でき助け合ったり意見を出し合いながら子どもの成長を見守り楽しく保育が出来ることが出来た。
- ・一人ひとりの観察を大切にし、安心して過ごせるように関わりを深めている。
- ・遊びや食事など、個々にあった関わりを心がけている。
- ・心配ごとがある時はすぐに保護者同士で相談するようにしている。

課題と思ったこと

幼児

- ・異年齢交流についての取り組みを考える。
- ・会議だけではなく他学年の子どもたち一人ひとりの対応の仕方など担任に確認する時間を設ける
- ・ありのままの姿を受け入れるだけではなく、次の課題に何をおくかを声掛けの軸としているが甘える時間を沢山設けて関わることも大切と感じている。
- ・マイペースな子に対し、行動を急がせてしまうことがあった。声かけの工夫や視覚で分かりやすく伝える事を心がける。

乳児

- ・子どもたちの遊びが発展するような関わりや言葉かけをする。
- ・乳児と幼児の交流がほぼなかったなので、コロナが収束したら交流できる機会を作りたい。

- ・グループごとに行動する時に時間を気にしてしまいがちなので、急いでいる時にこそ落ち着いた言葉がけを心がけるようにする。
- ・子どもが主体的に活動できるような声掛けをしていく。
- ・事の背景をよく考え、禁止・命令・行動を急がせることや、自信を失わせる言葉や態度を控える。
- ・連絡アプリ・キッズリーの確認を登園前に行うこと。

<p style="text-align: center;">Ⅲ</p> <p style="text-align: center;">保育者としての 資質と能力</p> <p style="text-align: center; color: red; font-size: 2em;">2</p>	・ 専門家としての能力・姿勢・義務	2	1よくできている
	・ 良識とマナー	1	2まあまあできている
	・ 組織の一員としての在り方	2	3あまりできていない
	・ 周りを感じ取れる感性・アンテナ	2	4まったくできていない

保育者としての資質と能力でよく出来たと思ったこと

幼児

- ・ 子どもの理解を深めるための幼児会議・学年会魏の充実（他職員と理解を含め、情報共有が出来ている）
- ・ 消耗品・教材等の説約をクラスで意識した。（画用紙の切れ端や余った部分も子どもたちが製作しやすいように準備した）
- ・ 日々の保育に目的を持って子どもたちと関われるように意識していた。出来るだけ保護者に子どもの様子を伝えるようにした。
- ・ 就学に向けて小学校の生活に慣れるように、椅子に座る機会を増やしたり廊下は歩く習慣を身につけるように声かけをして取り組んだ。
- ・ 子どもの気になる様子や保護者が伝えてくれた連絡事項は会議などでこまめに伝えるようにする。
- ・ 登園・降園の際は明るい挨拶と笑顔で迎える事を心がけコミュニケーションをとるようにしている。
- ・ 行事の担当や当番など自分の役割は、責任を持って行った。
- ・ 子どもの思い、気持ちに寄り添い保育を行った。
- ・ 職員間のほうれんそう（報告・連絡・相談）は、よく出来ていると感じた。
- ・ 安心して穏やかに過ごせるように心がけて関わった。
- ・ 感謝の気持ちを言葉で伝えるように意識している。

課題と思った事

- ・ 専門知識を増やせる研修にもっと積極的に参加すること。
- ・ 自分の意見を述べたり、他の職員に困りごとを相談したりがあまり出来なかった。
- ・ 怪我などの報告漏れがあり反省することがあった。
- ・ 怪我の経緯を含め、的確な話しが出来るようにする。
- ・ 保育室内の環境・整理整頓が疎かにならないように努める。
- ・ 専門知識の技能をもっと身につけたい。
- ・ わらべ歌など沢山勉強して保育に生かす。
- ・ 組織の一員としての在り方を考え自分の意見を書きだしながら伝えられるようにする。

- ・乳児だけではなく幼児保育に関する情報を日頃から得ようと努力する。
- ・今年度受けた研修を通して今まで気づけなかった事を沢山学べたので、今後も学びの研修に参加したい。
- ・提出物などもっと効率よく書いて、手作りの遊具などを作ったり子どもが過ごしやすい環境を整えていきたい。
- ・会議などで様々な意見を積極的にだせると良い。

IV 保育者の専門性 2	・研究・研修への理解	2	1よくできている
	・遊具に関する専門性の向上	2	2まあまあできている
	・園内の環境に関する専門性の向上	2	3あまりできていない
	・今日的課題に関する専門性の向上	2	4まったくできていない

研修の専門性でよく出来た

- ・研修で学んだ事をすぐに保育に活かした。
- ・自分の保育に活かしたい！ためになった！と思った研修の資料を見返して参考にした。

幼児

- ・幼小交流の研修会では、自分のクラスの子どもたちに置き換えて議題について考えることが出来た。
- ・研修で学んだ事を活かすように意識した。
- ・その日の活動の流れや、子どもへの声かけを振り返り、良かった点、反省する点を出して次の保育に繋げようと努力している。
- ・保育者やこどもに関する事件のニュースや記事には目を通し自園で同じ事が起きないように注意した。
- ・会議で自分の保育を振り返り反省する機会が作れた。その反省を生かし次につなげる事が出来た。
- ・保育の事を色々な先生に話す事が出来た。

乳児

- ・様々な研修を通し、主体性の大切さを再確認する事が出来た。0歳からの日々の経験の積み重ねが3歳の育ちへとつながる等、改めて学ぶことが出来た。
- ・研修で重要とされていた愛情深く、応答的、大切にされていると感じてもらえるように意識しながら保育にあたった。
- ・オンラインでの研修を受けさせていただいている事はとてもありがたい。
- ・課題を持って研修に臨んだ。

課題と思ったこと

- ・もっと専門的なことに配慮して保育をしたい。
- ・園内の環境（自然）をもっと活かして子どもたち同士で目的を持って遊べる工夫をしたい。
- ・研修等に自己課題を持って参加する意識が低いと感じている。
- ・アレルギー対応について研修等を通してより知識を深めつつ配慮していきたい。
- ・オンライン研修がほとんどだったので今後は、周りの保育士と情報交換や感想を伝えあえる研修会に参加したい。
- ・自分の保育を振り返り自分で分析しより良い保育に繋げるようにしていく。

- ・初めて触れる玩具や教材の意味をもっと深く学び、使い方・遊び方を伝えていけるようにする。
- ・アレルギー・デジタルメディアの子どもへの影響の研修は職員で共有し知っておくとよいと感じた。

<b style="font-size: 2em; color: red;">2 保護者への対応	・情報の発信と受信	2	1よくできている
	・協力と支援	2	2まあまあできている
	・守秘義務の遵守	1	3あまりできていない
	・対応上のマナー・良識	2	4まったくできていない
	・クレームへの対処	1	

保護者への対応でよく出来ていると思ったこと

幼児

- ・クラス blog を通じて子どもたちの活動や様子が伝わるようにした。
- ・常に笑顔で接することを意識して関わった。意見や要望があった時は、園長と話しあい解決できるようにした。
- ・保護者・園児に対する個人情報・運営情報などを口外しないように心がけている。

乳児

- ・保護者の思いに寄り添いつつ、家庭での子どもの姿を沢山教えてもらえるよう、雰囲気作りをしこまめに情報交換を行い不安なく過ごすことが出来るように心がけた。
- ・子どもたちの様子を細かく伝え、成長を共に喜び合えた。
- ・分かりやすく伝える努力・言葉遣いに気をつけている
- ・必要なものの補充依頼などクラス全体で共有できるように声を掛け合っている。

課題と思ったこと

- ・連絡をとるのが少なかった保護者もいたのでこまめに連絡出来るようにする。
- ・より良い保育に繋がられるように保護者からの意見を受け止め反映していきたい。
- ・欠席の理由、期間を全職員しっかり把握すること。